

吉川史料館たより

第 6 1 号
2017年
(平成 29年)
1月2日
月 曜 日

展示品紹介

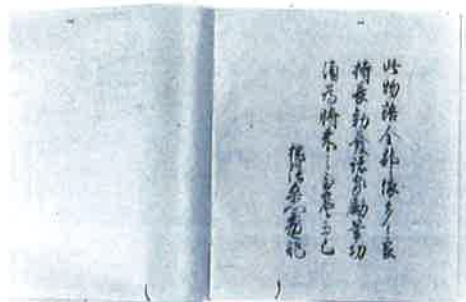
このたびは、大内家伝来『源氏物語』を紹介します。

源氏物語は、平安時代に紫式部が創作した宮廷を舞台に主人公光源氏の様々な恋愛物語です。ただ、原本は現存しておらず、書写本のみで流布し、大きく二つの系統に分類されています。



奥書によれば、「此物語全部依多々良持長勸発諸家勸筆功須為将来之至宝而已」

槐陰桑門堯空記



奥書部分

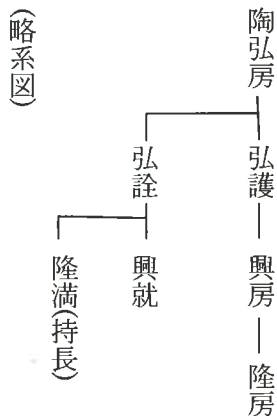
とあり、槐陰桑門堯空すなわち三条西実隆が多々良持長に依頼をうけ、諸家に書写を依頼し完成させた品で、将来の至宝であるというのです。

諸家とは、公家や連歌師ら合計四十三名にのぼります。

三条西実隆は室町時代を代表する文化人ですが、依頼主である多々良持長は、陶隆満という人物です。(次の系図を参照ください。)隆康は、陶氏の支流にあたります。

発行所 吉川史料館

山口県岩国市横山二丁目七一三
郵便番号 七四一-1008
電話番号 (0827) 421-1010



父の弘詮(ひろあき)は、大内氏の重臣で筑前守護代となり、その後、吾妻鏡の書写本を二十年間という歳月をかけて完成させています。(吉川史料館所蔵)

今日では多くの吾妻鏡写本のなかで最善本として研究者に評価されています。

そして、源氏物語に関しては、永正十三年(一五二六)、弘詮は宅において飯尾宗祇の弟子である宗碩に源氏物語講釈を受けていました。また、源氏画帖(ハーバード大学美術館所蔵)を所持していました。

さて、宗碩は飯尾宗祇の弟子で、大内氏をたより山口に滞在し、大内氏の家臣の家まで赴いて講釈することが出来たのです。そして、この源氏物語の書写にも宗碩の名も見えます。三条西

実隆が選んだ書写のメンバーは源氏物語が講釈できるような人物なのです。ゆえに「将来の至宝」と最後に書いてあるのです。

大内氏と源氏物語といえば、大内政弘が飛鳥井雅康に源氏物語の写本を依頼し後に重臣の吉見正頼が所持していた「源氏物語」があります。(現在は京都府京都市文化博物館寄託)

主君・政弘をはじめ重臣らも源氏物語を享受する土壌があり、隆満も影響を受けたといえます。

吉川家にどうして伝来したのかについては、何も分かっていませんが、これら五十四帖が納められている筥笥は、江戸時代初期には製作されたもので、外箱は宇治川、抽出は梅の模様が施されています。室町時代を代表する文化人らが書写した源氏物語を納めるにふさわしい筥笥です。

(原田史子)

※参考史料

『山口県史 中世 通史編』

(山口県 平成二十四年十月三十一日発行)

『源氏物語の伝来と享受の伝来』

(菅原郁子著 武蔵野書院 平成二十七年二月二十五日発行)

小鼓 胴 一筒

このたびは、小鼓の胴が一筒展示されている。

黒漆塗の上に桜・瀧・魚文が描かれた金蒔絵である。桃山時代の作とされる。目録には「伝折居作」とある。今回調べてみたが突き止めることができなかった。

鼓は能楽などで使われる伝統的な楽器の一つであると知っているが、『日本史大辞典 4』に鼓の項をみると次のようにある。

「日本の膜鳴楽器の一種、鼓と書く。張った膜面を振動させて発音する膜鳴楽器は、日本で古くは、「鼓」と総称されたが、現在は「太鼓」と言われ、そのうち胴の中央部が細いタイプを「鼓」と呼ぶ。いずれも鉄輪に張った二枚の円型革を胴にあてて、組調絛で締められたものである。日本ではこの楽器が芸能の多くの種目に使われている。このうち小鼓をとくに「鼓」と呼ぶことがある(中略)

こうしたさまざまな鼓が日本で成立した。小鼓は一鼓を祖とし、民間芸能で曲芸的に扱われてきたが、右肩上に定置され、猿楽の楽器となった。大鼓も猿楽の楽器で、小鼓より大きく身体

の左脇、左ひざに置いて打たれる。鼓の奏者が専門化している芸能種目は能楽である。現在小鼓方には、大倉流、観世流、幸(こう)流、幸清(こうせい)流、観世流、幸(こう)流、幸清(こうせい)流、

い)流があり、大鼓方には石井流、大倉流、葛野(かどの)流、観世流、高安(たかやす)流がある。(下略)

この小鼓は、大正十二年の関東大震災で、東京本邸が火災にあった折、箱・袋等が焼失して、この鼓胴のみが火を免れたと言われている。そこで皮袋等を新調して大事にされていたものであり、この小鼓の寸法は目録によれば、次のとおり

鼓 高 二五、〇センチ
乳 径 一〇、〇センチ
皮 径 二〇、三センチ



この小鼓は、三代藩主吉川広嘉が愛用していた品と伝えられている。そして、その銘を「泰山府君」と言ったという。

この意味について、平凡社の『大百科事典 8』を開いてみると以下の通り。「○泰山府君(たいざんぷくん)」

中国の五岳の一つ東岳泰山の神、東岳大帝ともいう。山東省泰山県の泰山は古来、天神が降り、死者の靈魂が寄り集う冥府がある霊山とされた。この山にあって人間の泰天(じゅうよう)生死をつかさどり、死者の生前の行為を裁く神として信仰されたのがこの泰山府君であり、その起源は後漢のころにまでさかのぼりうる。

○泰山府君祭(たいざんぷくんさい) 陰陽師が行う祭りの一つ、泰山府君は中国古代からの神であるが、仏教の閻魔大王と習合し、人間の寿命と福祿を支配し、その侍者司令神が冥府の戸籍を管理すると信ぜられた。天台宗の円仁が中国から勧請して比叡山麓にまつた赤山明神はこの神といわれ、また素戔尊や大国主神など日本の神祇とも結びつけられ、本地垂迹説によつて本地地蔵菩薩とされた。平安時代に宮廷公家の間で盛んにまつられたのみならず鎌倉幕府でも武家がとくに頻繁に祭りをを行い、陰陽家阿部氏が最も得意とした祭りであった。」

広嘉がなぜこの小鼓の銘を「泰山府君」と名づけたのか、その内面的な動機については、それを明らかにする材

料の持ち合わせが今ない。ところで、能の台本に「泰山府君」があることを知った。

無類に桜が好きで中納言藤原成範と天女との出会いに泰山府君が現れる空想的な話である。これについては、「吉川史料館たより 付録 61号」で紹介しよう。

広嘉は、錦帯橋をつくった藩主として世に知られている。

元和七年(一六二一)に生まれ、延宝七年(一六七九)享年五九才で死去している。病弱であったので、何度か京都にのぼって治療に励んだ。滞在中、生来の学問好きであったから、公家や高僧あるいは学者と交流を深めて、教養を高めた。

桂芳樹氏の『僧独立と吉川広嘉』を読むと、次の記事に出会う。

「万治四年(寛文元年) 正月十三日。今晚御囃子仰付られ候。西行橋、江口、桜川、浮舟、松風、海人、忠度、山姥、以上八番。 同廿日。今晚時に於て諷うたはせなされ候。中畑藤左衛門(外五人略)右の衆共うたひ申候。 二月八日。今晚当町の者共召寄られ、能操り仰付られ候。 同十五日。今晚座敷能仰付られ候。源氏供養、千手、清経、八島、くれは、以上五番。

三月朔日。神子舞今晚仰付られ候。」

広嘉は芸能に対しても並々ならぬ関心があったことが窺える。自分自身で小鼓を打ったことであろう。(藤重)

史料館を訪ねて

岩国小学校六年一組

去る十月二十三日、岩国小学校の 6 年生が地域学習の一環として「ちびっ子ガイド」を実施し、それが終わったあと、吉川史料館を訪ねてくれました。その折の感想文を何人か寄せてくれました。

ぼくが史料館を見学して一番驚いたのは、兜や甲冑です。昔はこんなに大きくて重そうな物を武将が着ていたと考えると、すごく驚きました。そして、史料館の中には書類がいっぱいありました。このような書類や甲冑など、資料の多さに驚きました。さらに、岩国城の模型もあり、昔の岩国城はぼくの想像と全く違っていたので驚きました。みんなにも見てもらいたいと思います。

佐伯

私が吉川史料館に入った時、いっぱい展示物がありました。その中でも「鹿図屏風」という絵が印象に残りました。その絵はすごくきれいでした。そしてはんこがありました。はんこでは、今と違って、なんて書いてあるか全く分かりませんでした。今のはんこはちゃんと読めるけど、展示してあった昔のはんこは、全く分かりませんでした。史料館を回って見ていると、はんこを

作ってみませんか、と言われて、その紙を見るとすごくおもしろそうでした。また史料館に行つてじっくり見てみたいですよ。

木村

私は吉川史料館を見学しました。まず最初に展示物がたくさんある所を見て、とても大切に保存されています。次の部屋にはいると、吉川家の家系図や年表みたいなものがありました。私は、吉川広家公、広嘉公は知っていましたけれど、あまり知らない名前もありました。また、今でも吉川家の子孫がいることに驚きました。

吉川史料館を見学して思ったことの一つ目は、とてもわかりやすく、見やすく展示されているということです。二つ目は、昔の物がとても大切に保管されているということです。昔の物があんなにきれいに残っているなんて驚きました。

松重

私が吉川史料館を見学して、印象に残っているのは刀です。刀には、長いものや短い物もあり、いろいろな種類やその刀をいろいろな人物が使っていることが分かりました。その他にも、兜は竜のようなものが飛び出ているものがありました。他の兜もありました。他の兜も残りました。外の屋根を見ると、両袖瓦でした。昔の家の階段を上がってみると、

右は黒いものが置いてあって左には六畳間がありました。和室の香りがしました。とてもいい体験ができました。外にあった年表は、昔にあった出来事などいろいろ書いてありました。

吉川史料館を見学して、とてもたくさんさんのことを学んで体験することができました。

藤岡

私が吉川史料館で印象に残ったのは、「狐ヶ崎の太刀」です。昔の日本刀が今、残っているのはすごいことだと思います。岩国をつくった一人でもある吉川氏が持っていた刀だとしたら、すごく貴重なものだと思います。他にも古い書物や印などもたくさんあって、昔の物がしつかり今に伝わっていることが分かりました。このような書や印がないと、今、分かっているものが分からなかった可能性もあつたはずだから、とても大切な書や印だと分かります。昔の物が今あることでいろいろと分かってくることも多いと思います。だから、この吉川史料館で昔の書や印、刀を見られたことがとてもうれしかったです。また行ってじっくり見てみたいですよ。

石丸

十月二十三日に吉香公園で旧目加田家住宅のガイドをした後、お弁当を食べてゴミ拾いをしました。その後、六年一組のみんなと吉川史料館に行き

ました。いろいろな展示物があつて説明が書いてありました。一番印象に残ったのは、狐ヶ崎の太刀です。国宝になつていました。かっこいいと思いました。ここには、吉川家に伝わる史料がたくさんあり、徳川家康の書状や、初代岩国藩主吉川広家や吉川元春の画像や兜などもあるそうです。兜や鎧は使っていた人によつて全然違う形をしていて、面白いなと思いました。こんなに重そうな物を身につけて刀をふりまわして戦っていたなんて、昔の人はすごいなと思いました。吉川家に関わる歴史的な史料をみられてよかったです。

松浦

吉川史料館には、刀や兜、はんこなどの昔の物が展示してあります。兜には、金の竜がついています。はんこは、ぼくが見るとなんて書いてあるのかわからないけど、昔のはんこは、こんな感じなんだ、と思いました。外には、昔の畳の部屋が作つてあり、昔の風景が感じ取れる所があります。そして錦帯橋の模型もあります。入り口の所には、吉川氏の年表もあります。吉川史料館は、昔のことがよく分かると思います。

新道

エッセイ

なつかしい錦帯橋 奥嶋 猛

私は高校生まで岩国で育ち、その後大学に進んで、終生仕事として橋梁の設計に携わりました。但し私は鋼橋で木橋ではありませんでした。

原稿の依頼を受けて、なつかしい錦帯橋の事を書こうと思いい立ちました。岩国市役所から資料として『至上の傑作錦帯橋』などを入手したので、これを材料にして書いてみました。

錦帯橋の寸法は図一の通りです。一六七三年に制作されたものとしては橋長一九三メートルと壮大なものです。使用材は図一のとおりです。

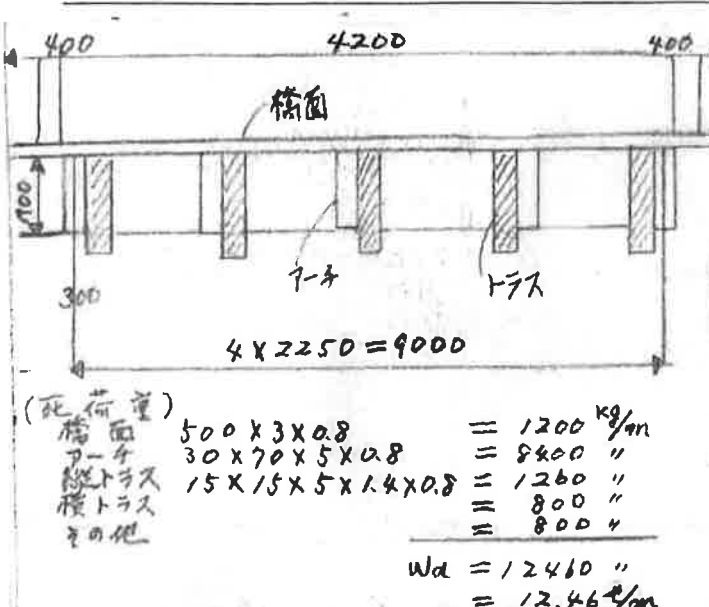
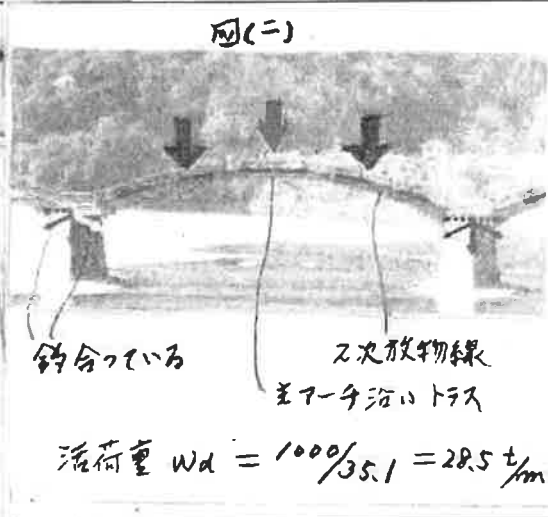
錦川は当時から荒れ川で錦帯橋以前は流れ騒ぎを何回となく繰り返していました。特に川底は台風毎に基礎から洗い流されました。

川底面は石積で覆い、橋脚も川の流れの方向に舟形として、水の流れを妨げない形で、橋脚外面を石積で覆って在り、丈夫で水に流されにくい形となっています。

この橋脚間にアーチ型の木橋が架けられています。このアーチは、図二の通り二次放物線に近く、しかもトラスが主アーチ沿いに組み込まれているため、曲げが小さく軸力が大きくなっています。

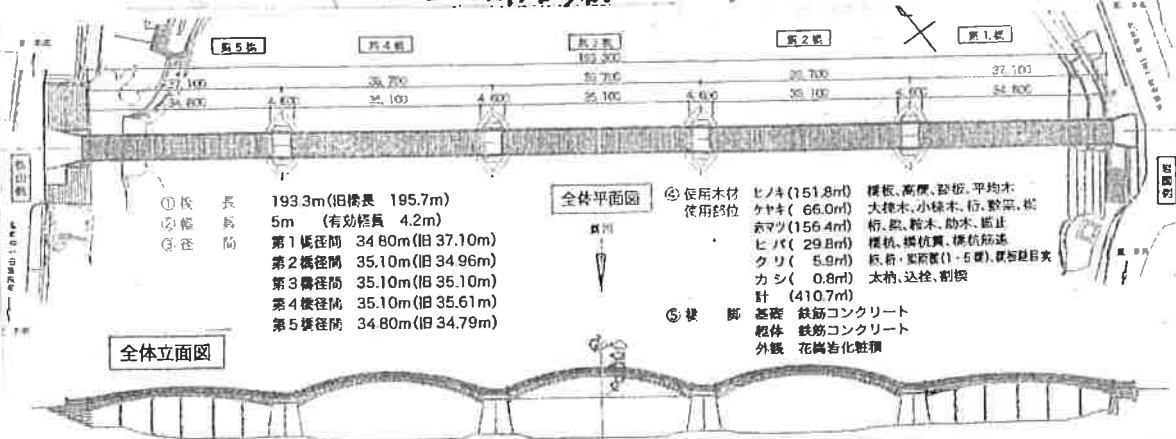
以上応力検査を行うと許容応力内に入っています。しかし巻金で締め込む

ことで別の部材を一体化してトラスで偏載荷重による曲げモーメントを零(ゼロ)としている等の仮定を行っているので、少々危険だと考えられる。

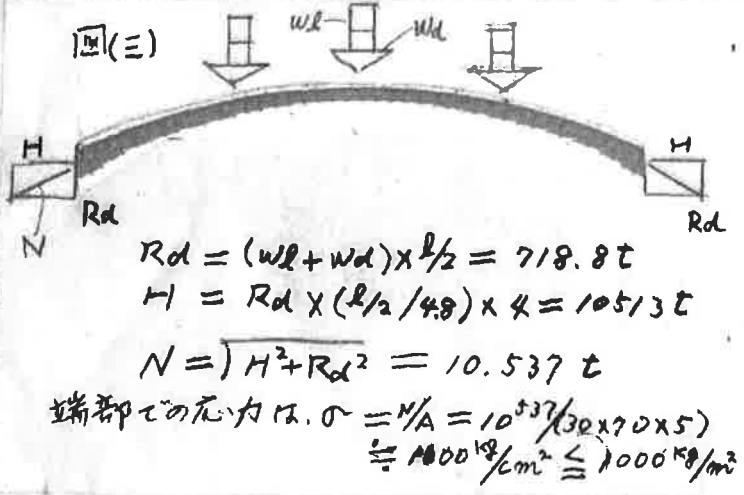


(死荷重)	500 x 3 x 0.8	= 1200 kg/m
橋面	30 x 70 x 5 x 0.8	= 8400 "
アーチトラス	15 x 15 x 5 x 1.4 x 0.8	= 1260 "
橋脚トラス		= 800 "
その他		= 800 "
Wd = 12460 "		
= 12.46 t/m		

しかし、安全率は3程度あるので安全であると思われる。この3橋に集中荷重が部分的に載荷されるのが危険だと考えられるので気をつける必要がある。



① 板	長さ 193.3m(旧橋長 195.7m)
② 桁	5m (有効桁長 4.2m)
③ 柱	第1橋径間 34.80m(旧 37.10m)
	第2橋径間 35.10m(旧 34.96m)
	第3橋径間 35.10m(旧 35.10m)
	第4橋径間 35.10m(旧 35.61m)
	第5橋径間 34.80m(旧 34.79m)



$$R_d = (w_l + w_d) \times L/2 = 718.8 \text{ t}$$

$$H = R_d \times (L/2 / 4.9) \times 4 = 10513 \text{ t}$$

$$N = \sqrt{H^2 + R_d^2} = 10.537 \text{ t}$$

$$\text{端部での応力は } \sigma = M/A = 10^{537} / (30 \times 70 \times 5) \approx 1000 \text{ kg/cm}^2 \leq 1000 \text{ kg/cm}^2$$

これらの点を差し引いて考えても昔の人はえらい!!! しかも美的感覚に優れている点に脱帽!!! (千葉県浦安市在住) [編集後記] 奥嶋さんのエッセイでは、錦帯橋が偏載荷重に問題があるというのは新鮮な驚きです。(藤重)

吉川史料館
〒七四一-0081
山口県岩国市横山二丁目七-三
TEL 〇八二七-四一-一〇一〇
FAX 〇八二七-四一-三二〇〇